LUZ の熊野古道案内

2005 年 9 月　中

９月１１日～３０日

je2luz.exblog.jp

目次

２００５年９月

９月１１日　熊野の周辺　なぜ北山？
９月１２日　熊野の周辺　上北山道の駅
９月１３日　熊野の周辺　北山山系の地盤
９月１４日　熊野の周辺　下北山村　池原ダム
９月１５日　熊野の周辺　ダム直下・池原
９月１６日　熊野古道の行事　花の窟・お綱掛け
９月１７日　熊野の周辺　**169** 号線小口橋
９月１８日　熊野の自然　楠
９月１９日　熊野の自然　杉・霧
９月２０日　熊野古道の行事　木本祭り

2005 年　09 月　11 日

熊野の旅　熊野の周辺　なぜ北山？

この前も取り上げたところですが、『奈良県吉野郡上北山村』『奈良県吉野郡下北山村』『和歌山県東牟婁郡北山村』この三つはみんな『北山』です。おかげでずいぶんややこしい話になるときがあります。奈良県側は『かみきた』『しもきた』と呼ぶのですが和歌山県のは区別がつかず話がややこしくなりがちです。おまけにどの北山村も簡単な買い物などは熊野市に出てくることが多いので付き合いも多いのです。

人的付き合いは随分古くからあったろうと思います。この『北山』から一番近い町が『木本』でした。汽車に乗るにも『紀伊木本駅』・現熊野市駅からでした。

経済的には昭和 30 年代中頃まではトラック輸送がママならず、筏（いかだ）によって北山川・熊野川経由で河口の新宮・鵜殿に出していました。帰りは川沿いには登れないところは御浜町経由風伝峠越えや浜街道を木本まで出て家に帰っていました。

時代が下って旧制中学、新制高等学校についても山の中にはありませんから、県を越えて三重県立木本高等学校に来ていました。公立高校の越境は非常に難しいのですが、木本高校には奈良県との協定が結ばれ、入学枠と寄宿舎が用意されていました。私のときにも数名の生徒が来ていました。

『北山』と言うのは中心から見て『北』にあるから付けられる名前です。吉野の中心や奈良の都から見れば吉野の南にあり『北山』にはなりません。それなのに、この広大な村は『北山』になっています。熊野の人がそちら方面を北山と呼ぶことは当たり前です。まっすぐ北にありますからね。

『奈良県』にありながら『上・下・北山』を名乗ったのは、昔からの人的・経済的結びつきの強さからでしょうね。

この結びつきも熊野が紀州・大阪経済圏との付き合いが薄れ県の中心経由名古屋経済圏に移っていっているように、北山も吉野の中心経由奈良の方に付き合いが移ってきています。
行政区分の違いと言うのは徐々にこうした実生活も変えて付きます。

上・下北山村は大台ケ原・伯母峰に源を発し延々と紀伊山地を縫って走る北山川のそばに張り付くように部落があるところです。
その清流も地盤が悪いため、のべつ崩れるので大雨の後、しばらくにごったままになることがあります。この写真も雨の二日後なのに少し白濁しています。
カメラは　**コダック・レチナ・1a　クセナー50mm2.8**　by **je2luz** |
2005-09-11 12:36

2005 年　09 月　12 日

熊野の旅　熊野の周辺　上北山道の駅

国道 169 号線（309 号併用区間あり）は奈良県橿原市で国道 24 号線から分かれて、一路まっすぐ南に向かいます。粗い地図で見るとまさに真っ直ぐ走っています。
ところが実際の道は吉野の山、大台ケ原、紀州の山の巨大な山塊に阻まれその谷底を遡り、分水嶺を越えて谷を下るものです。

この道路ではハンドル操作のミスは多くありますが、居眠り運転はほとんどありません。ハンドル操作とブレーキ操作が忙しくてとても居眠りしてはいられません。
京都・奈良・大阪方面から来ると、吉野川沿いを過ぎると険しい山をよじ登り始めます。今は、一番険しかったところが改修され、ループ上の道路で落差を稼ぐ方法で登ってゆきます。
大きなループですが完全に 360 度回転しますから、運転していておかしな感じがすると思います。冬季は凍結防止剤を撒いてありますが、この山間部は道が良くても絶対に飛ばさないことです。特にこのループ区間で飛び出せば１００ｍくらいの空中ダイブになります。
峠の長いトンネル『**伯母峰トンネル**』（おばみね）を抜けると分水嶺の下を抜けるので水の流れが変わり下りになります。この川ははるかかなた、新宮市で太平洋にそそぎます。

しばらく下ると、小さな集落があります。『**西原**』と言うところですが今の道が出来る前は本当に狭い道が谷沿いにあり、その道のそばに張り付くように家が建っていました。いかにも寒そうな、『どうしてこんなところに人が住み着いたのだろう？』と、思わずには居られないところでした。戦乱のたびに落ち武者が来るのが分かるようなところです。

ここを過ぎて次の集落が上北山村の中心**『河合』**です。ほんの少しだけ空が開けています。

河合には**『道の駅』**があり、川を挟んで**『上北山温泉』**があります。ともに村営で温泉も日帰り入浴が出来ます。169 号が険しいだけに休憩をかねた入浴客が結構居るようです。

本当はここから国道を外れて１０Km ほど入った**小処**（こどころ）にある**『小椽温泉』**（ことちおんせん）の方がムードもあり良いとは思いますが、そちらは無名な上道路に面していませんからね。私としてはそちらをお勧めします。ほんの 10 分ほどですから・・・道の駅の先の信号で川を渡れば一本道に近いです。きれいな谷川沿いに入ってゆきます。

この河合にある神社などはなんだか由緒のありそうなものですが、平家の落人とかが祀った物かもしれません。

上北山村を見渡すと農地と言うものが見当たりません。昔は一体何をして生計を立てていたのでしょうか？　木地師、またぎ？？？そしてアルバイトに山賊？？？そんな気がするところです。

カメラは　**レチナ　１a　クセナー50mm2.8**　　by **je2luz** | 2005-09-12 12:57

2005 年　09 月　13 日

熊野の旅　熊野の周辺　北山山系の地盤

　わざわざこんなことを書くのは、熊野市の外れから、伯母峰峠を越え、吉野郡川上村に至る一帯の地盤は恐ろしく悪いものです。

　高い山がそそり立つので、しっかりした岩盤が、デンと座っているように思えますが、ところがどっこい、これが全山、岩の砕けたものがかろうじて積み重なっていると言うところが非常に多いのです。プレート活動と造山運動によって破砕されてしまったのでしょうか…

　その関係で、この国道 169 号線は晴れては石っころを繋ぎとめる水が不足してバラバラとバラスが落ちてきます。雨が降れば当然のようにバラバラ…冬になって凍れば膨れてバラバラ、溶ければまたバラバラ…要するに大きな山崩れが無くてものべつ石が落ちてくる道路です。
　最近では防災工事がすすんで路面まで落ちてくることは少なくなりました。その分、斜面はほとんど金網張りになってしまいました。

　極端な例は、川上村に出来た『**大滝ダム**』です。最悪の地盤のところにダムを作り、素人が見ても『大丈夫なのかなあ』と言っていたのですが、案の定、水をため始めると、集落を載せた地盤全体が、今までの水のバランスと変わったので、崩れ始めたのです。例によって、作り始めたものは何が何でも完成させると言うことで、ダムの貯水池全体をコンクリートで固めるような工事を始めています。
　そもそも、このダムは昭和 35 年、調査に着手したのに、着工したのは昭和 63 年と言うもので、必要性にも疑問符が打たれているものです。

　川上村は戦後にも大地すべりを経験しているところです。言うなれば、それだけ危ない地盤なのです。

　紀伊半島の背骨のように見えていますが、決して頑丈なものではないのです。
　日本列島はほとんどそうですが、この紀伊半島、紀伊山地も少し走ると地質が変わるほどごちゃ混ぜ地盤です。
　いたるところに清水が噴き出していますが、それだけ岩に裂け目があるということでもあります。

　天気の良い時は良いですが、豪雨の時は下手なところに車を止めないでください。
　止める場所？
　谷は駄目、尾根の切り取りのところは駄目、若い木の生えているところはもっと駄目、新しい家の敷地は駄目・・・・なだらかで、1000 年以上の木があって・・・そんな場所ですね。
　この山間部にはあまりありません。安全な場所にあるはずの鎮守様も竜神様もダムに沈めましたからね。
　川上村の竜神様は日本最古に近かったはずですが・・・一応移っていただいてはい

ますが…
　湧き水はほとんどの場合その上に家があるということも無いですからきれいなものです。

カメラは　**KODAK RETINA 1a XENAR ５０ｍｍ２．８**付け　by **je2luz** | 2005-09-13 03:44

2005 年　09 月　14 日

熊野の旅　熊野の周辺　下北山村　池原ダム

　戦後、アメリカの**ニューディール政策**の日本版として計画された、**『吉野熊野総合開発』**で作られたダムの中で最大のものが、下北山村にある**『池原ダム』**です。
　堰堤の高さ１１１ｍという巨大なものです。目的は発電です。戦後の復興期にこの池原ダムをはじめ熊野川水系を細切れにしたダム群で大量の電気を起こし関西方面に送りました。それと共に、この紀伊山地に点在する集落から労働力として若者をも吸い上げて行きました。
　ダムの完成が昭和 39 年（１９６４）で、過疎の始まりと一致します。

　この巨大ダムはその上流に点在した集落を全て飲み込んでゆきました。範囲は今も一部が山の上に移転した**『白川』**をはじめとし、先ごろの**河合**のすぐ下流まで及びます。
　ダム沿いの道路は昔で言えば山のずっと上の方を走っているのです。なにせ、１００ｍの堰を作ったのですからね。
　この池原ダムの発電放水は下流の**『七色ダム』**にそそいでいます。そして、夜間電力を利用して七色ダムから池原ダムに揚水しています。
　七色ダムはいつでも満水状態で満々と水をたたえていますが、池原ダムはものすご

い豪雨のすぐ後以外は半分くらいの水位です。
　最近はバス釣りのメッカとしてテレビ放映されていますが、いつも赤茶けた山腹がむき出しになった、不気味な姿で写っています。

　このダムが異常に水位が下がったままになることに関し、電源開発に質問したことがあるのですが、『必要量の発電を行うので水位が下がるのです』という分かった様な分からない様な返事でした。計画水量がおかしくて満水に出来ないのか、『ダムの欠陥で意識して水位を下げているのか…』とも訊ねましたが、これは無駄な質問でした。
　答えるわけの無い質問ですからね。
　しかし、この水位の低さは私にとって、やはり不自然なものです。

　ダムの堰堤上を抜けると、山越えで尾鷲市に抜けることが出来ます。ただし、この道路は通行止めになっていることが多いので、走行計画に入れないほうが良いと思います。通れても、落石が多く、良い車ではもったいないです。

　池原ダムは集中豪雨の後で白濁することがあります。これは先に述べたようにこの上流の山に地盤が悪く、大規模な山腹崩壊が起きることがあるからです。十数年前の豪雨の後では 2 年経っても泥が沈殿せず、中間層に留まって、下流の水質を悪化させました。この対策のため、ダム湖の水を全部放水し、取水口の位置を変更して白濁水を早く放出できるように改良しました。一トンいくらと言う発電用水を抜く交渉はかなり難しいものでしたが、おかげさまで、それ以降は白濁水が何年も滞ることもなく

なりました。
　ただ、ダムに溜まった水は半分死んだ水になってしまうことは確かです。
　新宮市はこうしたダムにせき止められた水ばかり流れてくる熊野川の最下流で飲料水を取水するため、この周辺では一番水がまずいと言われています。

　国道 169 号線および十津川沿いの国道 168 号線ともども寒く日当たりの悪い山間部を走るため、積雪、凍結が当たり前です。従って、冬季にはたっぷり凍結防止剤・塩化マグネシウムをまきます。清流のはずのダム湖に春になると**赤潮**が発生します。これが吉野熊野総合開発の置き土産です。

山をも飲み込むほどの高さの巨大なダムです。

カメラは　**KODAK RETINA 1a XENAR 50ｍｍ2.8**　　by **je2luz** | 2005-09-14 06:1

2005 年　09 月　15 日

熊野の旅　熊野の周辺　ダム直下・池原

　熊野川水系最大のダム池原ダムがせき止めて水が来なくなった旧河川敷は結構広いものです。勿論、河川敷だけでなく、立ち退きになった農地なども含まれて居ます。

　ここには運動公園が整備され、東大阪市と提携した山の家を含め宿泊施設も完備しています。
　紀伊半島とは言え、寒い山の中ですから冬季は使い物になりませんが、夏は夜になるとものすごく涼しく、合宿などには最適なところです。関西方面、特に東大阪市民なら目茶目茶安いですから沢山の運動部の合宿や林間学校が行われています。
　毎年、『山の音楽会』と言うのも開かれて、野外コンサートが行われています。かつては河島英吾さんがここの雰囲気を甚く気に入り、毎年出演していました。
　切り立った周囲の山やダムに反響していわゆる原っぱでの野外コンサートには無い大きな残響があるのです。
　春には『桜祭り』が開催され熊野からも随分訪れているようです。公園内のは勿論、国道沿いにも桜が植えられ、樹齢もかなりのものになったので花がすごくきれいです、

　この運動公園はダム堰堤のすぐ下から始まり、国道１６９号線にぶつかるまでのすごく広いものですが、されに下流のダム建設廃土捨て場の部分にも公園が増設されキャンプなども出来るように整備しているようです。この公園の整備は今も続いているようです。

　さて、この運動公園なども１１１ｍと言う高さを誇る『池原ダム堰堤』のすぐ下です。川が少し曲がっているのでダムはまともに目には入らないようになっていますから、ダムのあることは意識しません。

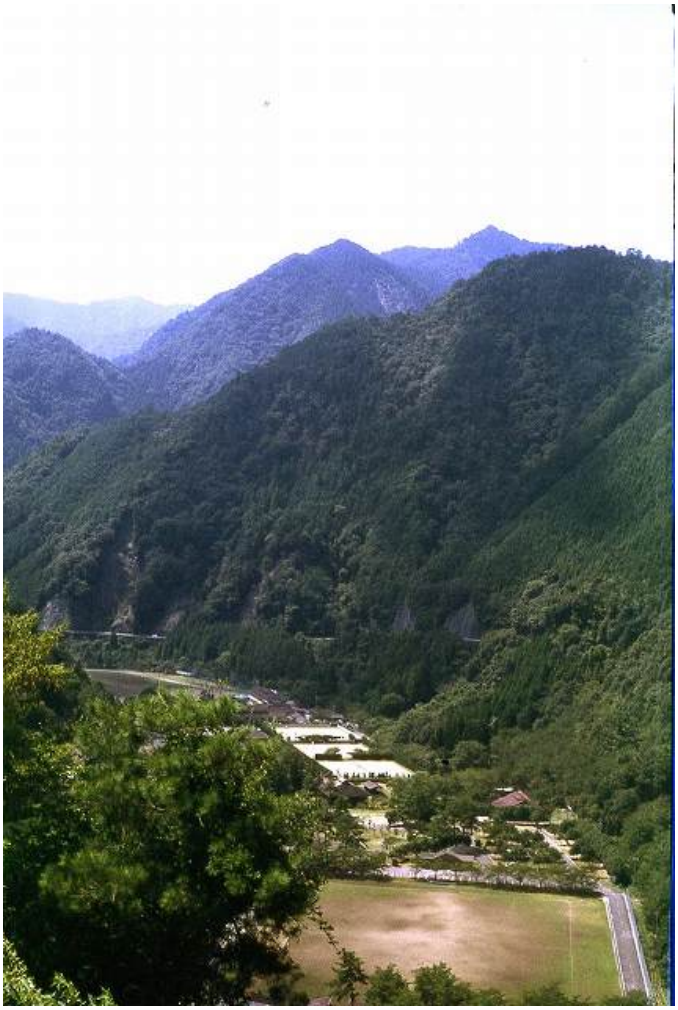
この池原ダムの堰堤は二つに分かれていて、池原向きの分には放水ゲートが無い構造です。つまり、いくら豪雨が降ってもこちら向きには放水が無いということなのです。だから、旧河川敷などにこの施設が作れたのです。でも、すぐ裏手のダムには半分までしかなくても５０ｍの高さの水が蓄えられ、万一の時はものの一分もすれば・・・・・・

ここの施設でアマチュア無線の講習会を二度行いました。夜のコースで遅くなるため、地元の有力者が『明日もあるんですから泊まっていったら』と、言ってくれましたが、友人ともども、後の水の壁が気になるのでとても眠れなさそうなのでお断りして毎晩通いました。

運が悪ければ国道を走っていても巻き込まれるわけですがね。

『絶対、このダムは壊れません』と、電源開発関西支社の偉い人が胸を張っていましたが、築後４０年・・・その頃の鉄筋コンクリートのビルなどは老朽化で取り壊しになっていますね。

どでかい地震は少しはなれた熊野の沖で起きる予想ですが、小さいのはこの一帯でものべつ起きています。あまり長い時間のんびりしたくないのは取り越し苦労でしょうね。ダムから見ると運動公園は足元に小さく見えます。写真は標準レンズです。



カメラは　**KODAK RETINA 1a XENAR 50mm2.8**　by **je2luz** | 2005-09-15 12:26

2005年　09月　16日

熊野の旅　熊野古道の行事　花の窟・お綱掛け

久々に熊野古道本体の話です。

日本最古の神社、**『花の窟神社』**には一般の人も参加する大きな神事があります。

『お縄掛け神事』です。

その名の通り、**『しめ縄』**を掛ける神事です。このしめ縄は普通の感覚のしめ縄ではありません。途中に飾りはあるものの普通の縄に近いものを御神体の岩山から境内の端に向けて張り降ろすのです。

岩山自体が数十メートルあるし、境内も100mあまりあるのでかなり長くなります。

昔は境内の松の枝に掛け、最後も境内の端っこの松の根元に巻きつけて止めたものです。

ところが、前にも書いたようにこの一帯の松は松くい虫によりほとんど枯れてしまいました。

花の窟の松も古木は全部枯れてしまい、松くい虫にやられても枯れるところまで行かない若い松だけになっています。こうなっては本来の『お縄掛け』が出来なくなりなした。そこで考え出されたのが、若松が縄をかけられるまで大きくなる間、コンクリートの柱を立ててそれに縄をかける』と言うものです。今から20年ほど前でしょうかね、無粋な電柱のお化けが建てられました。

この、松に見立てた柱の頂上に縄をかけるのに、普通なら滑車を使うのですが、ここでは大昔からやられていたように大勢の人で縄を引っ張り高さを稼いで載せるという方法です。

片側がものすごく高いとは言え、柱がものすごく高いので随分遠くまで延ばして引っ張らないとその高さになりません。

上から降ろされた縄は参加する人たちに引っ張られ、国道を渡り、前の七里御浜に達します。広々とした七里御浜を掛け声と共に綱を引っ張って柱の天辺に載せます。

最後に綱の尻を結ぶ松も無いのでこれまた無粋なコンクリートに結んでいます。

花の窟の境内は今では亜熱帯性広葉樹林になっていますが、海の側はかつては松の古木の立つ境内でした。つまり、今よりずっと明るい境内でした。

松を本当に育てるなら根元の広葉樹を伐採して、足元をすっきりさせないと駄目だと最近の植物界では常識なのですが、ここでは逆に広葉樹がのさばっています。果たして、このままで松が復活するのか疑問です。

この『お綱かけ神事』は年に二回あります。綱が普通の縄を少し太くしただけなので、二回張ってももたないときがある位です。

2月と10月の２日に行われます。今年は来月の２日は**日曜日**になります。例年以上に沢山の方が参加するのでしょうね。関西や名古屋方面からもバスを仕立てて参加する人が居るようです。参加ではなく『奉賛』？？なのでしょうか。

多いと言っても近寄れないようなものでは無いですから、暇な方はこれに合わせて

こられてはいかがでしょうか。

by **je2luz** | 2005-09-16 04:27 | 熊野

2005 年　09 月　17 日

熊野の旅　熊野の周辺　169 号線小口橋

国道 169 号線で三重県と奈良県の県境を越えて少し走ると、少し長い橋を渡ります。

ここが小口（こぐち）と言われるところで、交通の要所でした。

この地点で大台ケ原から上北山を通った北山川と矢ノ川峠に源を発する大又川が合流しています。しかし、今では七色ダムのダム湖になっているので、合流点やら入り江やら分からなくなっています。

この小口の橋は昔、もっと下のほうにあり、つり橋でした。このあたりは山が切り立ち、流れも急なため橋杭を立てることは危険だったからです。

つり橋とは言え、ものすごく太いロープで支えられたもので、昔のバスやトラックが小さかったとは言え、この橋を渡っていました。勿論、一台ずつですが・・・

私が子供の頃は、木本発河合行きのバスでこのつり橋を渡っていました。しかし、段々老朽化し、乗客を下ろし、人が渡った後でバスが渡るような時期もありました。

七色ダムの工事と共に、道が谷底の方から中腹に持ち上げられ、はしも高いところに架け替えられました。

ものすごく長い橋脚を立て橋を渡しました。今は水に沈んでいるので普通の橋に見えますが、完成したときはひょろひょろ割り箸の上に乗せたような怖いものでした。

この橋は、ダムの完成前に来た台風により、橋脚が折れ、落下してしまいました。

はるか下の合流点に鉄の橋桁が引っ掛かっているのを見た記憶があります。
　急流の強さ、流木の怖さ、風の怖さを思い知らされるものでした。
　しかし、この事実はもう忘れられています。今まで、このことに言及する物を見たことがありません。

　このきれいな湖水の中に恐ろしく細長い橋食いが立っているのです。数十メートルのものです。
　もし、ダムの水を抜くことがあれば恐ろしい光景になります。

この橋より高いのは上北山と下北山の境にある『前鬼橋』（ぜんき）です。これは当時の下北山村長が自慢げに連れて行ってくれたのを覚えています。子供心に下を見るのが怖かったですね。
大人になってから完全に水を抜いたときに見ましたが、やはりあまり見たくない光景でした。

何時もきれいな水を満々とたたえる、七色ダム湖です。自然の湖と違い、湖畔と言うものが無く不気味です。
カメラは　レチナ　１ａ by je2luz |

2005 年　09 月　18 日

熊野の旅　熊野の自然　楠

熊野をはじめとする紀州には**『楠』**（くすのき）が沢山あります。それも、巨木が沢山目に付きます。
神社の境内は勿論、よく手入れされた民間林でも楠の巨木は立っています。人工林では枝が横に広がる木なので邪魔な物なのですが、巨木ばかり残っています。

日本ではある程度の巨木になると、その木に霊が宿るとみなされて御神体や御神木になることがあります。このあたりの楠はそれ並みの物が多いです。
神社の境内の場合特別邪魔にならない限り全ての木が守られて古木、巨木になります。私たちの見る神社はそうした巨木たちの中にあり、神々しさを感じさせるものです。
この社殿が、今流に作られた庭園の中にあると、社殿ばかり目だって浮いてしまいますね。とても、ありがたみなど無い感じです。自然に伸びた木々が在ってこその神々しさだと思います。

なぜにここまで『楠』の巨木だ多いのか？
楠は成長が早く数十年で大木に、100 年もすれば巨木になります。しかし、これだけでは民間林に邪魔な楠が残るはずはありません。

楠の使い道
これは、もともと**『樟脳』**（しょうのう）の原料として使われました。樟脳の『樟』も『クス』で同じ木を指します。つまり、クスのエキスなのです。楠を製材すると工場内に居られないほど樟脳の匂いがします。何年も乾燥させた厚板を製材しても同じです。この効果を期待してたんすの引き出しに使われていることもあります。私の家の作り付けの洋服ダンスの引き出しの側板には楠を使っています。気休めかもしれませんが、当時は製材業でしたから、楠の板がふんだんにありました。
現在で一番良く使われるのは**『彫刻』**です。きめの細かい材質、刃物に対し優しく

てきれいな肌が出る特質、虫に食われない、巨木がある・・・など、うってつけの素材です。彫刻には材木の芯が無いものを使わないと割れが入る危険が大きいのです。そうなると、少し大きな物を一本木で彫るとなると巨木が必要なのです。

この彫刻用材は製材してから、小さいもので 5 年、少し大きいもので 10 年くらいは寝させないと乾燥と狂いを逃がすことが出来ないとされています。現地でも製材して転がっているものが少ないので彫刻家も大変かと思います。

なぜ楠が残ったか？

これは一重に**『樟脳専売』**のおかげです。昔々の紀州藩の留め木は明治になり解除なりましたが、それ以降に防虫剤としての樟脳を生産するには楠が欠かせませんので樟脳を専売とすると共に、その原料の楠は民有地であろうと伐採には許可が要るようにしたのです。おかげで、民有林の中の楠もそのまま保護された形になりどんどん巨木化したのです。

楠は割合と発芽しよいらしく、このあたりではあちこちに生えてきます。

鳥が運んできたのでしょうね。我が家の庭にも生えてきています。邪魔ではないので放置していますが、あまり、塩には強く無いらしく、空風台風が吹くとばっさりと葉を落とします。

昨年は海岸線の楠は一斉にやられましたが、強い木ですから次の年には分からないだけに回復します。

こうして、巨木が多く、あちこちの市町村の巨木調査では上位を占めていますし、案内地図にもなる様なものが多いです。

わざわざ伐採して出材する様な物ではないので、このあたりの楠の巨木はこのまま残るでしょうね。

楠の新緑は透明感のある黄緑色です。モノクロで撮るとこのようの乳白色に写ります。
赤外で撮ると真っ白な雪のようのなります。
カメラは　**イコフレックス 2a・テッサー75mm**

by **je2luz** | 2005-09-18 12:13 | 熊野

2005 年 09 月 19 日

熊野の旅　熊野の自然　杉・霧

本州以南の日本人のイメージの中では、山の中の街道＝杉林…海沿いの街道＝松林…人里近くの街道＝竹林…となっているようです。

時代劇でもそういう設定でとられていることが多いです。

事実、東海道も箱根などは杉木立、海岸沿いは防風林を兼ねた松原です。日光街道も杉並木・・・

ここ熊野の熊野古道も杉林の中が多いです。特に、現代は特殊な山奥や海岸線や崖の部分を除いて全部人工林になっていますから、余計に杉木立の中が多いのです。

熊野市の熊野古道は海岸線を通るものが多いので、育林に適さないので雑木山のままというところもあります。

学者に言わせると日本の場合ほとんどのところは林生の最終形は針葉樹林、それも南方では杉林になると言います。その典型がかつての屋久島だったわけです。

屋久島ほど雨が降るわけでも無いですが、雨の多さでは日本一と言われる尾鷲・熊野地方です。それに、目の前を暖かい黒潮が流れ、背後に１０００ｍを越す紀伊山地を背負うと言う屋久島並みの地形を持つこのあたりは、同じようにすぐに霧が発生します。

雨が多く、霧が多い・・・これは樹木の中でも杉が大好きな気候です。そして、材質の良い杉が生まれると言うことです。

ただ、熊野市は少し気温が高く、年輪の幅が少し大きくなります。それでも、海岸線から一つ山を越すとそこは別世界、夏でも布団が要る、冬は毎晩零下まで落ちるところです。そこでは材質も緻密になりよい木が育ちます。前に述べた『流れ谷』と呼ばれるところです。さらに北になる吉野はもっと緻密なものが育ちますが、あまり遜

色の無い流れ谷の木は原木市場で吉野・桜井の業者によって競り落とされ『吉野杉』として出荷されているようです。同じ山塊で採れる物ですから区別も難しいですね。

中辺路などは山も深く、樹齢の高い老木の場所が多いのですが、熊野・尾鷲などは里山ばかりなので、手入れが行き届き、伐採も定期的に行われてきた林業の山ですから、巨木の林ではありません。その林業の生産地に対する配慮不足がマスコミで話題になっているような問題を引き起こすのです。私も、林業家としてはこんな無責任な世界遺産指定は反対ですからね。たまたま私の家は流れ谷方面ばかりで『熊野古道』関連の山が無かっただけです。

熊野は夏でもしょっちゅう山には霧が掛かります。気象条件では鬼ヶ城など海岸までせり出した山沿いに海からの水蒸気が急上昇し入道雲を形成してゆくのが見えるときがあります。その水蒸気の中に入ると真っ白で前が見えず、押し流されるような気流も感じます。当然、水蒸気が帯電してきますから異様な感じで危険を感じます。
運が良いと言うか悪いと言うか巻き込まれたことがあります。嫌なものでした。
しかし、この霧が山を育てているわけです
したの写真では海岸から一枚目の低い山だけが見えてその後ろの山塊は全て霧の中です。取り立てて天気の悪い日ではなく、湿度が少し高いと言うだけでこうなります。この霧が写真二枚目の『大馬神社』の杉の巨木を育てたのです。

by **je2luz** | 2005-09-19 13:12

2005 年　09 月　20 日

熊野の旅　熊野古道の行事　木本祭り

秋になると日本中祭りがあります。

街中は夏祭りが盛大ですが、田舎に入ると夏なんぞ祭りをやっているほど暇じゃなかったので、盆踊りを除いて祭りは秋になるところが多いですね。

この地方でも、鎮守さまごとに豊作感謝の秋祭りがあります。

この秋祭りは以前には 11 月から 12 月にかけて行われていました。それと言うのも稲の刈り取りが今のように 8 月下旬から９月の上旬なんてのではなく、10 月から 11 月だったからです。

台風シーズンを越してからの刈入れなので被害を受ける率も大きかったのです。それを避けるために、早場米化するのに品種改良がされ、栽培方法も温床での苗作りなど改良されたのです。田植えも一ヶ月以上早まりました。それに伴い、色んな行事も時期をずらしてきました。

秋祭りも、ほとんどのところで早められています。おまけに、定着している若い層がサラリーマン化していますから、何月何日では参加者が減ってしまうようになりました。それに伴い、何月の第何日曜なんてことになってきました。暦を見ないと祭りの日が分からないのが増えましたね。

熊野の中心木本町の秋祭りも昔は 11 月だったようですが、10 月 10 日になっていました。これは『体育の日』で祭日だったからです。この祭日が日日変動型になると共に不都合が生じ、今では 10 月第二日曜日本祭り、その前夜が宵宮と変わっています。
旧暦から新暦へ…生活形態によって更に変更へ…これで良いと思います。どうしてもこの日で無ければなどという性格のものでは無いですからね。

木本祭りは非常に時間の掛かるお祭りです。広くも無い町内を一回りするだけなのですが、朝早く私の町内の山車が出発するのを皮切りに始まり、最後に神社から出たおみこしがこの町内の稲荷さんにおなりになり、お帰りになるのは夜中の 12 時ごろになります。
各町内は自分のところに出し物が帰れば解散してしまいます。私の町内は一番先に出る分一番先に解散で、午後 2 時ごろには終わっています。夕食を食べて、ゆっくりテレビでも見ていると、神社にみこしが帰った合図の号砲がなります。時計を見て、『今年は早かったね』などと 1１時ごろなら言います。
このようにこの祭りはピークも無く長いので見物には向きません。町内に交通規制がかかり観光客の方には御迷惑をお掛けいたします。

この祭りでは写真のような『奴さん』が参勤交代の行列のようなものを演じます。今では伝統の『六歩』と言われています。
この町には代官所はありましたがお殿様も居らず、この街道は参勤交代の行列も通らないところです。紀州公は和歌山からですからね。
この行列は昭和になって始まったものだと言うこともはっきりしています。よそで見てきて、『これはいい、俺らもやろうぜ…』と、始めたそうです。

行事と言うものは 5 年もやると『恒例の』になります。10 年もやると『伝統の』に変わります。50 年も経つと『由緒ある』物だそうです。
今年は 10 月 9 日になります。

by **je2luz** | 2005-09-20 11:50